

## 201803 古代隠岐島＜小考＞

在野一生

今日は、隠岐の三子島が「天之忍許呂別」（古事記）と呼ばれる所以を探求してみます。天之忍許呂とは？

志羅紀や隠岐から四つの国を国引きして出雲連邦が成立しましたが、出雲成立前の歴史過程を知る上でも隠岐島の古代を探求することは重要であり価値があると思います。

以下、少し力を入れて考えてみますので、皆さんも腰を据えてしっかり読み込んでください。日本神話の理解が深まると思います。(^^)

隠岐島は島としては珍しく水が豊富なので、古代海上交通の中継基地としてこれほど重要な島はないといえます。同島は、秦氏出身地と言われる慶尚北道蔚珍郡鳳坪里波旦（辰韓：斯羅国の地）から海へ出て、津島海流とリマン海流に乗れば自然に到着する場所です。半島東北部、古代東濊や扶余分国の沃土からも渡来しやすかったと思います。

今回は、偽書とされていますが、あえて＜伊末自由来記＞をベースとしてみます。改めて検討し直してみても、日本神話成立の元となった可能性も覗えて少々驚きを覚えました。なお、冒頭で下記記載の年代や諸付言は私的推定である事をお断りしておきます。

—紀元前—

先ず、隠岐島に住んだのは、

① 【木の葉比等】（箕翁・箕婆）、辰韓の斯羅国人。

本島西北部の主（重）栖と三子島の船越に集住、後に全島展開。安楽に暮らす。

\*原初神：豊雲野神（火神）の別名に葉木国尊、見野尊に注目。大山祇女：木花開耶姫命（神阿多都比売）、木の葉→狗波→狗邪韓国族

次に、

刺青をした②【海族】が出雲から島東南部の奈岐浦へ。

そして、

出雲から③【鞍大山祇（久那斗）神族】が少数移住。

海士の於佐神が殺され、鞍山祇之大神の御子沖津久斯山祇神が来航。

\* 於佐＝宇佐＝于尸山国、鞍＝狗邪韓国（伽耶）、久斯＝古資彌凍国（小伽耶）

④【於漏知（タタラ族）】が隠岐三子島へ来襲、隠岐本島へも侵攻。

⑤宇都須山祇神の時、宮を東南（奈岐浦）から於母島の西北（主栖）へ移す。

⑥加須屋海祇大神へ支援依頼

\* 加須屋＝伽耶、米生産開始、各地で山祇、海祇神を護神として祭祀。

三子島の西の島に沖津久須山祇、其女神比奈真乳姫神、其御子比奈真岐神を祭る

加須屋山祇大神の御子⑦奈賀大人（妻：大山祇神の姫）出兵、本島の於漏智を討伐

\* 奈賀大人＝那賀首領＝蛇（海洋）族王＝倭王＝和邇。山祇は部族長の意。

—紀元後—

奈賀大人後裔：⑧奈岐命、六代目出雲大山祇神（八千矛神か？）の姫を娶る。

\* 奈岐命が神話（伊耶那岐命の国生み）の源か？

本島東南部を宮とし「奄可」、自らを奈岐命と称する。ここを根拠地として三子島於漏智を放逐。

\* 奄可＝奄加＝奄美＝海部＝阿部＝弁韓：安耶国族

西の島（宇留）は奈岐命が管轄し、西の島と奈賀島の海峡に海人：比等邦、奈賀島と知夫里の海峡に左路彦命を配置した。

天津神の子：⑨【美豆別之主之（小之凝呂別）命】が諸部を率いて来島。

1世紀頃と推測。

\* 水主神社（城陽市、東かがわ市）は天火明命系譜。水別主＝天孫：天火明命か？奈岐命の娘を娶り、政権を譲り受ける。登美屋姫（長髓彦妹）か？

本島西部を防衛戦として久米部を配置。同部駐屯地を役道（伊末自）と呼ぶ。比等那が統治。

\* 伊末自＝伊間地＝伊（耶那岐）族地。

三子島は、沖津久期山祇神が小之凝呂山祇首として比奈・麗・知夫里を兼治。那賀は奈岐浦命が小之凝呂島海部首（→阿曇首）として兼治。

本島：主栖（於母須）で出雲山祇族、海族が栄える。

遺跡多し。

阿遲鉏高彦根命の子：⑩【奈賀命（後に中言命）】来島。丹波の須津姫を娶る。

\* 西出雲王系の多岐津彦？塩治彦？2世紀前後。

隠岐、出雲、丹波（天火明命降臨地）との連合が構築されている点に注目。  
須津は現在の宮津市野田川河口。

島の開発が進む。須津姫が長自羽麻緒姫と共に織物を普及。

\* 長白羽神は、神麻績機殿神社で伊勢神宮に奉納する荒妙を織った神麻績部の祖神。

別名を天白羽神、天之志良波神社（常陸大田市）の祭神。東海地域に見られる天白信仰の神→名古屋市天白区。白羽＝ス羅派＝ス羅族。

以上の考証から、現時点では、次のように推測します。

隠岐島本島の水若酢神社祭神

\* 天火明命（天忍穗耳命の子）と推定

和気能須命神社祭神

\* 倭加之巢命＝倭族邑長→奈賀大人後裔：奈岐命

知夫里島の由良比女神社

\* 由良＝余族＝徐羅伐（ス羅国）王女

奈賀島の宇受加命神社

\* 宇受加＝丹波海部の豊受大神か？

宇留（西の）島の比奈二社

\* 宇（于尸山国）族

上記のように、隠岐島と三子島に天子：天忍穗耳命の子である丹波降臨天孫：天火明命族との関係性が覗えるので、イザナギ・イザナミ2神の国生みで生れた「隠岐の三子島」の名である「天之忍許呂別」は、天子「天忍穗耳命」由縁と考えて支障ないと思います。

### <補足>

祭祀系譜：水若須別主命→那賀命→十揆（とおえ）命

八千矛神・多岐津姫（「中」津姫）→阿遲鉏高日子根神（葛城鴨の一「言」主）  
→「中言」神・須津（丹波・宮津）姫

大山祇（阿多賀田須命）—阿陀加夜奴志多岐喜比賣命—天道日女・天火明命→  
須津姫・那賀命（中言神）、伊末自姫・十揆命

水若酢神社がある隠岐の島町郡周辺に「五箇」地名があるのは、水若酢別「主」  
命を天火明命と結論（多分私だけ）しましたが、同命が五部族を伴って降臨し  
た神だから「五箇」地域があると考えられる。

【天】天照大神—【天子】天忍穗耳命—【丹波：天孫】天照國照彦天火明櫛玉  
饒速日尊

\*隠岐の三子島＝天之忍許呂別・・・オノコロ

「古事記」淤能碁呂島、「日本書紀」礮馭慮島

本居宣長「古事記伝」オノゴロ島は淡路島北端にある絵島（岩屋港）

「新撰龜相記」「釈日本紀」では沼島（淡路島の南）

紀伊の友ヶ島の神島は淡嶋神社の発祥の地→加太へ遷座

淡路島南端、阿那賀伊毘沖の小島（鳥葬地）に注意

沖ノ島古墳群

<http://www.city.minamiawaji.hyogo.jp/soshiki/maizou/okinoshima-kohun.html>